

2021年2月～2022年3月の北湖におけるスジエビの成長

大前信輔・太田滋規

1. 目的

スジエビは琵琶湖に生息する重要な水産資源の一つであることから、本種の基本的な生態である成長の季節変化を把握することは必要である。また、今後、漁獲加入した個体の着底時期を推測していくためには成長速度の把握が必要である。そこで、成長の季節変化と速度を調べた。

2. 方法

2021年2月から2022年3月にかけて調査で得られたスジエビを用いた。採捕はそれぞれの時期の生息中心場所で行った。2021年2～3月は北湖の沖合水深80m以深水域で、2021年4～7月は北湖の沿岸域（水産試験場港湾）で、2021年7～9月は北湖の浅域（彦根地先の水深10mおよび30m）で、2022年1～3月は北湖の沖合水深80m以深水域で採捕した。港湾での採捕にはスジエビボックス¹⁾を、浅域と沖合での採捕にはソリネット²⁾を用いた。

採捕したスジエビは雌雄判別が不可能であった2021年7～9月を除いて、雌雄ごとに頭胸甲長を測定した。1mmごとの体長組成のモード値をその月の代表値とした。

3. 結果

2021年2～3月の頭胸甲長は雌雄と共に4mm台で推移し成長しなかった。4月になると成長がみられ、5月には雌が7mm台、雄が6mm台となった。この間、成長に雌雄差がみられ、雌は1～2mm/月、雄は1mm/月の成長を示した。その後、産卵期となる5月から7月まで成長はなかった。エネルギーを成長ではなく産卵に向けた結果と考えられた。

2021年7～9月に沿岸域で採捕した個体は2021年生まれの稚エビがほとんどであった。稚エビの頭胸甲長は7月に1mm台、8月に2mm台、9月に3mm台となり、1mm/月の成長を示した。22年1～3月には雌が5mm台、雄が4mm台となった。2021年生まれがこのサイズまで成長したと考えられた。この期間の成長は雌雄共になかった。

以上のことから、スジエビの成長期間は少なくとも7～9月までの夏季から秋季と夏季の産卵盛期を迎える前の3～5月までの春季であり、稚エビの9月までの成長速度は1mm/月であった。

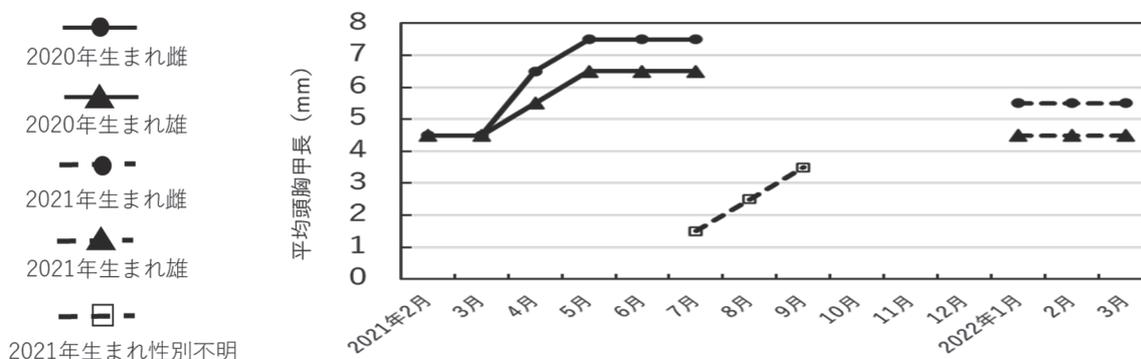


図 2020 年生まれ群と 2021 年生まれ群の雌雄別の頭胸甲長の推移

文献 1) 井戸本 (2012) : 簡易なトラップによる琵琶湖産エビ類のモニタリング調査. 平成 24 年度滋賀水試事報

2) 井戸本 (2013) : スジエビ資源調査のための小型ソリネットの開発. 平成 25 年度滋賀水試事報